昭和42年2月24日国鉄東局特別扱承認新聞紙第490号
昭和40年3月8日第三種郵便物認可（毎月5日、15日、25日発行）

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆日本革命をアジア革命の勝利と
世界革命の突破口とせよ！
共産主義者同盟

4月15日
第94号
編集発行人　杉村宗一
一部20円
購読料
20回につき
一部　400円（干共）
二部　700円（干共）
三部以上一部に付300円

戦旗

戦旗社
東京都文京区湯島2丁目3－3（加藤ビル内）
電話代表（814）1635
振替（東京）26110
大阪支局
大阪市福島区鷺洲上3－3（十貫ビル内）（59）0235
京都支局京都市左京区下鴨宮崎町120－28 竜（70）0025
名古屋支局（781）1938
静岡支局 静岡市音羽町114

☆反帝闘争の旗の下侵略と抑圧に抗し
生活と権利を実力防衛せよ！
☆プロレタリア永続革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！

労働者・学生の力を4・28（沖縄・ベトナム）へ総結集せよ

沖縄人民の包囲闘争に続こう

28日、六時
日比谷野音

国会包囲坐り込みで佐藤に実力対決を

今やベトナムをめぐる激闘とベテンの"和平劇"は終った。アメリカ帝国主義による侵略は以前にも増して軍事力の強化が、激しさを加えている。ベトナム情勢のこのような展開は、資本と国家権力による全面攻勢の局面へと転じている。この焦点に日本プロレタリアをせる重要な原因になっている。闘いの焦点は、日本帝国主義のベトナム侵略加担の具体的攻撃と軍事力強化の攻撃にある。ートを大規模に組織し、この闘いを佐藤内閣との実力対決におし進め、闘い抜くことが革命的な労働者・学生の任務である。

アメリカ帝国主義のベトナムへの軍事攻勢はいよいよアメリカ地上軍の17度線を越えての地上侵入直前に達している。北爆の徹底遂行のために、B52直爆爆撃基地はグアムからタイに移された。タイの三〇〇〇名の派兵、韓国軍の増派増強、沖縄基地の飛躍的強化拡張等々にみられるように、全アジア的規模で侵略体制が再編強化されている。このような軍事攻勢を背景に、南ベトナムでは四月一日、軍隊の戒厳令、新徴兵法が公布された。アメリカ帝国主義とグエン・カオ・キ政権はベトナム解放民族戦線の闘いによってつくりだされている"二重権力状態"の反革命的ゆり戻し＝平定に向って、今年中に何とか有利な事態に持ち込もうとして猛烈な焦土作戦の姿に訴えているのは明らかである。

こうした状況の中で、日本帝国主義の占める位置は、アメリカ帝国主義にとってかけがえのないものになっている。彼等は「絶対確保」のなっている。沖縄軍事基地の役割が増大し、軍事基地の拡張につぐ拡張が強行されている。さらに羽田空港は米軍空輸軍団が日常的に使用しており立川（砂川）基地の拡張、板妻自衛隊寄港認同演習（五月上旬）が予定されている。これらは第三次防衛力増強計画と同時に進行している。

佐藤内閣は、これらの侵略的事務力とともに、アジア太平洋開発閣僚会議、インドネシア債権国会議、エカフエ総会等を通じて後進国の反革命支配関係への経済的テコ入れを強化し、アメリカ帝国主義の極東支配の一環を担いつつ自らの独自の利害を確保しようと画策している。

沖縄軍事基地永久化の策動

このため既成指導部によって、"沖縄デー"として提起され、われわれが目前にしている四・二八闘争は、まったく新しい意義をもっている。救出二法阻止闘争で巨大な盛り上がりを見せた沖縄人民の対し、アメリカ帝国主義と琉球政府は、沖縄をさらに侵略の基地として永久化するため、相次ぐ基地の拡張と教育・行政支配の強化の攻撃をかけている。沖縄中部読谷（よみたん）村の五二万平方メートルの地に一万六千人の海軍大部隊を駐留させる。あるいは南岸二重百の規模の巨大な基地建設（かでな）基地拡張、具志川・村昆布（こんぶ）の軍用集積所の建設、北谷村系譜の土地接収、そして北谷村（ちゃたん）の東ジャ海岸一帯の七〇万平方メートルの軍用水面化通告。これらの攻撃の生活を破壊しつつ攻撃に対し、沖縄人民の怒りはうっ積し、米軍基地撤廃闘争への巨大な力を秘めている。しかし自米両支配階級は、沖縄人民の掲げる「祖国復帰」の要求を逆手にとって、これを盲腸隊派遣の口実としたりしているのは本土における核基地の強化の攻撃をかけている。沖縄中部読谷（よみたん）村の五二万平方メートルの地に一万六千人の海軍大部隊を駐留させる。あるいは南岸二重百の規模の巨大な基地建設（かでな）基地拡張、具志川・村昆布（こんぶ）の軍用集積所の建設、北谷村系譜の土地接収、そして北谷村（ちゃたん）の東ジャ海岸一帯の七〇万平方メートルの軍用水面化通告。これらの攻撃の生活を破壊しつつ攻撃に対し、沖縄人民の怒りはうっ積し、米軍基地撤廃闘争への巨大な力を秘めている。しかし自米両支配階級は、沖縄人民の掲げる「祖国復帰」の要求を逆手にとって、これを盲腸隊派遣の口実としたりしているのは本土における核基地の強化の攻撃をかけている。沖縄人民の怒りは、日本帝国主義のベトナム侵略加担の具体的攻撃と軍事力強化の攻撃にある。この焦点に日本プロレタリアを結集し、この闘いを佐藤内閣との実力対決におし進め、闘い抜くことが革命的な労働者・学生の任務である。

総評3万動員

闘いのスローガン

一、砂川基地拡張反対！強制収用を実力阻止せよ！
一、沖縄軍事基地撤廃！米軍を沖縄から叩き出せ！
一、ベトナム侵略反対！佐藤の加担を許すな！米原空母エンタープライズ寄港実力阻止！

4・26北部地区青年集会へ！

二・二六砂川闘争を先頭で闘った北部地区反戦青年委員会（反憲法・文京・北）はこの闘争を五月以降の決戦に向けて発展させるために、来たる四月二六日（水）夜六時より「砂川基地拡張阻止・ベトナム侵略反対／北部地区青年集会」を開催することを予定している。五百名規模の大衆的集会としてかちとるために、職場オルグや復帰カンパ等、全力の取組みがなされている。

場所・板橋区医師会館（電）ルブ六二一三〇一
集会内容・司会あいさつ、映画「流血の記録・砂川」、地元反対同盟からの訴え、反対同盟への檄文、職場・学園からの決意表明と討論、まとめ「闘いの進展のために」、インターナショナル斉唱。
（整理番は戦旗社で受取って下さい。）

4・27大田青年労働者集会

大田区反戦青年委員会は、四月二七日に二度目の「青年労働者を中心としてステッカー貼りなどの広汎な宣伝活動が行われている。

所と時・大田区民会館予定（国電蒲田駅西口下車）、夜六時より
集会内容・基調報告、職場の活動報告、砂川地元反対同盟からの訴え、討論。

4・11日比谷八千名結集

四月十一日、日比谷野外音楽堂において、「春闘共闘大集会」が開かれ、東京を中心に近県からも青年労働者を中心に八千名が結集した。夕刻五時半ごろから、動労をはじめ千葉や茨城からもハチマキをした青年労働者が集まり始め、集会が始まるころには野音は人で埋めつくされる程になった。七時過ぎ、デモ行進に移り、東京駅の国労会館前で流れ解散した。

4・18統一ストで資本への反撃を

社学同 明大支部再建宣言

帝国主義の反動攻勢に抗して日夜闘い抜いている全国の労働者・学生の同志諸君！

社会主義革命を勝ち取ったことを宣言する。

六十余日にわたるストライキ闘争を闘いぬいた明大支部は、二・二闘争による裏切りと屈服路線を乗りこえ、一部の指導部を生みだすことによって再起し闘争を開始した。

われわれは二・二以降出向闘争を結集して十数度にわたって総括討論をだらう中で、官僚組織と同盟員の本質的な拡大による自治会主義的傾向という明治学支部の組織的腐敗性と階級形成の問題を、すなわち社会同盟の階級的技術的対応、学生運動における資本への転換を内実化されたものとして把握しきれず、それによって改良主義と反帝統一戦線を生み出した旧明大支部の政治内容における欠落点と誤りを正摂路線として行くことを確認した。

さらに階級闘争の資本的転換の内容を確認し、現在の階級闘争の反撃に対する我々の学生運動、とくに明治学における学生運動の任務を意志一致する中で、真の闘争を水続的持続闘争として継続する中で、ベトナム反戦、砂川、沖縄基地撤廃闘争と結合し、学費値上げ反対を全人民的闘争と結合し、学費値上げ反対を全国的闘争と連帯し闘いを組織していくべきである。この決意をもって旧同盟員一部と同盟とともに先進的闘って来た若干の同志を加えわれわれは再建大会をかちとった。

現在、五月からの闘いと、新入生の入学に対して奇々と準備をなし、諸党派との徹底した党派闘争と同盟を強化する中から再度明大における社学同のヘゲモニーを奪取する決意表明をもって明大社学同の再建を全国の同志諸君に報告する。

一九六七年四月一〇日
社会主義学生同盟明治大学支部

鉄鋼相場三二〇〇円に甘んずるな

鉄鋼業八千五社（八幡製鉄・富士製鉄・日本鋼管・住友金属・神戸製鋼）は十日、組合側に対して、「ベースアップ三千二百円」を回答した。これによってにわかに春闘はあわただしさを増してきた。

好況期の春闘と絡って始った今春闘は、鉄鋼不況期の生産技術闘争」とうって変って「楽観ムード」に浸されていた感がつよかった。

「三千二百円」は、昨年の「千五百円」に比べ、額の上でこそ大幅に上ったとみえる。とはいえ依然として資本側の譲歩ではない。資本の余裕を持って攻撃態度である。まず第一に、定昇込賃上率が九・八七%を記録したとほいえ、三月期決算にみられる資本増益率は二・六・三%を記録している。第二に、ベースアップ中にしめる職務給、職能給の比率が極めて増大してきていること（会社ともに基本給七百円に対し職務職能給千五百円）。第三に、官房書記長官自からいっているとおり、労務管理が能格となり一層の労働強化が おこなわれていること。第四に、ニ・二六砂川闘争を先頭で闘った北部地区反戦青年委員会（反憲法・文京・北）はこの闘争を五月以降の決戦に向けて発展させるために、来たる四月二六日（水）夜六時より「砂川基地拡張阻止・ベトナム侵略反対／北部地区青年集会」を開催することを予定している。五百名規模の大衆的集会としてかちとるために、職場オルグや復帰カンパ等、全力の取組みがなされている。

日経連「春闘拒否」

賃金体系合理化へ

日経連は鉄鋼闘争と同時に「春闘否定」「賃金体系全面的改革」「合理化推進」の方針を全産業にわたって徹底するようおびただしく「鉄鋼経営者に訴えてきた。だが、過去二年間、千五百円という お話にしかならない低額に抑えこんできた資本は、鉄鋼労働者大衆の底辺にうっせきする不満を無気味に感じていた。それゆえにこそ、スト権の批准は必ずしもかんたんにはいくなかったにもかかわらず資本の攻撃をかわすための手をうったのであった。この攻撃はまもなく、業界ではなく組織労働者への攻撃をふくめた巧みな攻撃であった。

これは資本側の労務部・日経連の方針である。いや、すでに各企業においては職務給攻撃が軒なみに始っている。日本ローヤル、田岡染料、鐘淵化学、大東化学、東洋西庄、三洋電機、早川電機等々、これらの攻撃は、資本の労務部・日経連の思いつきではない。今年二月経営者会議（東電社長木川田会長）がうちだした「経済社会発展計画」（四二年から四六年）にもそなえられた資本の行動能力を労働者の犠牲において処理する「経済効率化」（合理化）の統元綱領にある。すなわち、合理化過程における労働者階級への抑圧は日本資本主義の延命のとつの大きな鍵を握っているといえよう。

資本との非和解的対決の準備へ

好況を理由に要求闘争を含んだ攻撃をこかける資本も、決して全労働者を懐柔するどころか、ますます反撃をこかける資本も、決して全労働者を懐柔するどころかもちえない。われらが真に懐柔しうるのは一部の職制にすぎない。他の大多数に対しては威嚇以外にはなかろう。なぜなら現局面の好況も永久的なものではありえず、資本の攻撃はいっそう、資本の攻撃、ベトナム特需と景気テコ入れのための公債によっているからである。資本家階級自身も景気過熱の弊害を感じている。資本家階級は「合理化」の名の下に中央官僚を開催、民間独裁体制を打ち固めたのだ。

さて、作業所段階では、職場の組織化、職能給・職務給の撤廃、賃上げ抑制、労務管理の強化、職場の活性化、職場の民主化、職場の組織化、職場の民主化、職場の組織化、職場の民主化、職場の組織

昭和42年2月24日国鉄東局特別扱承認新聞紙第490号
昭和40年3月8日第3種郵便物認可（毎月5日、15日、25日発行）1

安保体制と日本帝国主義軍隊

―自衛隊と日本階級闘争（上）―

三次防の意図するもの

アメリカ帝国主義によるベトナム侵略がますます拡大され、日本帝国主義のベトナム加担も政治・経済のあらゆる面からますます深化しつつある。そして、七〇年安保再改訂むかって、防衛問題が国会においても再びクローズアップされる中で、日本帝国主義の軍隊である自衛隊の問題が、よりやくにして階級闘争の焦点として登場してきた。それは、三月十四日正式に閣議決定された第三次防（第三次防衛力整備計画、四二―四六年度）であり、三月二九日に判決の出た「恵庭裁判件」であり、地方選の争点ともなっている「自衛隊識別章」の作製などである。

侵略兵器の大規模国産化

さる三月十三日の国防会議において決定された三次防の内容は、大綱として抽象的性格規定で、具体的整備計画の羅列にすぎない。従って、その作製にあたっての風規的バックボーンや政府当局の傍観認識を明らかにすることによって、三次防の本質を暴露しなければならない。

周知のように、三次防は総額二兆三四〇〇億円におよび、三次防の一兆三六六九億円に比べて倍増されており、四二年度をみれば、前年度より四二億円増の三八〇八億円となり、防衛関係費の伸び率は一一・八％、一般会計歳出に占める比率は七・六九％である。大蔵当局でさえ、ベトナム戦争をかかえるアメリカなど特殊国防費を除いては、毎年一〇％以上も防衛費を伸ばしている国は日本だけであると言明しており、最近の英国戦略研究所の報告書をみると、防衛関係費は世界で十一番目にあたるとされている。

しかも、防衛費のうち約三〇％は国債によってまかなわれているが、このように「自衛のため」という名目での軍事費が、すでに国民生活の過大な犠牲の下に計上されてきていることは注目される。

ところで、公けにされている三次防の基本方針は、「日米安保体制を基調とし、侵略に対する抑止力として有効な防衛力を整備する」として、「通常兵器による局地戦以下の侵略事態にたいし、もっとも有効に対応しうる効率的なものを目標とする」と定められている。

そこで、三次防の具体的内容を要約的にみてみるならば次の四点になるだろう。

一、核弾頭を搭載しうる地対空ミサイル部隊の編成、すなわちナイキ・ハーキュリーズを中心にホークの装備であり、ナイキ・ハーキュリーズは、"非核弾頭用"に改修したものという苦しいまきれの注釈がついている。

二、機動力強化、対ゲリラ戦、輸送ヘリ、戦車約二機、戦車約二機、戦車約二機